JNSA PRESS
JAPAN NETWORK SECURITY ASSOCIATION
AUTUMN 2014 VOL. 38

寄稿

Privacy Index調査
～消費者は利便性と引替えにプライバシーを犠牲にできるか～
02

未来につなげる心のセキュリティ
07

CONTENTS

特定非営利活動法人
日本ネットワークセキュリティ協会
NPO Japan Network Security Association

ビッグデータ時代とセキュリティ

JNSA 顧問
株式会社アイティアイ　代表取締役
日本ラドウェア株式会社　エクゼクティブ・アドバイザー
大和　敏彦

6月から顧問として、JNSAに復帰しました大和敏彦です。よろしくお願いいたします。

今後のセキュリティを考えるため、ITの動向を見てみたいと思います。

今は、ビッグデータの時代と言えます。といっても、データを収集し、蓄積し、解析することだけがビッグデータではありません。ビッグデータ時代とは、Webの時代、ソーシャルの時代、モバイルの時代に続く、ビジネスや生活、娯楽自身、およびその仕組みを大きく変えていく流れです。

インターネットによって、情報と人を自由に繋げることが可能になってWebの時代となり、ビジネスや生活、娯楽を大きく変え、検索エンジンをビジネスとするGoogleやYahooが生まれました。インターネットのユーザ数が増え、人と情報に加え、人と人とのコミュニケーション、それに係る情報共有も大きく変わるソーシャルの時代となり、TwitterやFacebookが生まれました。さらにモバイル環境がより広く安く使えるようになり、モバイルの時代が訪れました。モバイルの時代にはAppleによってタブレットやスマートホンが再定義され、いつでも、どこでも繋がる環境が実現しました。この繋がる改革は、IoT(Internet of Things) へと拡大して行きます。様々な機器が繋がることによって、新しいビジネスや仕組みが可能になっていくのです。

この繋がる機能に加え、クラウドによって、処理やストレージの機能がより簡単に、安価に使えるようになってきました。インターネットとクラウド環境を使い、データをより積極的に活用していく流れがビッグデータの時代です。IoT接続によって機器の持つ情報や様々なセンサーの情報が収集可能になります。それらのデータが従来の方法に加え、機械学習やデープラーニングという方法を使うことによって、より正確に現実世界をデータとしてサイバー空間に取り込むことが可能になります。サイバー空間上での分析・解析・マイニング・予測を通じて、現実世界へのフィードバックが分析結果やリコメンデーションと言う形で行われ、さらにそのフィードバックが自動化に繋がっていきます。このようにビッグデータ時代は、IoT、センサー、解析、マイニング、予測、デープラーニング、自動運転といった技術によって起きているデータによる革命なのです。

しかし、このような動きが広がっていくためには、安心・安全を実現するセキュリティ技術や仕組みが無くてはなりません。IoT接続された機器情報や、ウェアラブル機器による個人の人体情報のように、より機密度の高い情報の収集や蓄積が行われるようになり、自動運転に繋がる制御も行われるようになっていきます。一方、攻撃の種類も増え、標的型攻撃のように悪質化、複雑化しています。

そのような環境では、機器、ネットワーク、クラウドのセキュリティ機能の実現と運営が一層重要になり、JNSAの役割もますます高まっていくものと思います。

Privacy Index 調査
～消費者は利便性と引替えにプライバシーを犠牲にできるか～

JNSA 理事
EMC ジャパン株式会社 RSA 事業本部
水村　明博

1. Privacy Index 調査の目的

いま、プライバシーの話題は世界中で盛んに議論されていますが、世界の消費者がプライバシーについてどのように感じているのか、その意見に焦点が当てられた統計情報はあまり無いのが現状です。EMC ジャパン株式会社（以下 EMC）では、プライバシーに対する消費者の考えという重要な視点を世界的な話題として考えるために、アンケートによる調査を実施しました。これにより、世界各国・地域におけるインターネットおよび情報プライバシーに関する消費者意識と行動を明らかにします。そして、今後のクラウド、モバイル、ソーシャルなど次世代 IT プラットフォームと考えられる情報通信技術利用の発展に伴うプライバシーの問題に対し、関係者の間で議論が促進されることを目的としています。

2. 調査の概要

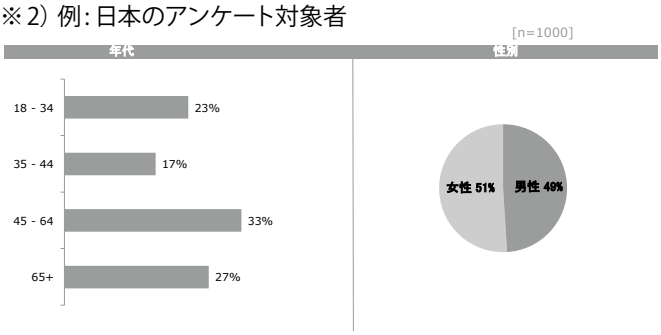
調査は、世界15カ国(※1)、15,000人の消費者に対してオンラインのアンケートを実施しています。年齢は18歳以上の成人男女に実施しており、なるべく年齢や性別に偏りが無いようにしています(※2)。

質問は多岐に渡っていますが、引き出したい事項は以下の通りです。

- オンライン利用の何に価値を置いているか
- プライバシー確保のために何か対策をしているか
- 利便性や個人のセキュリティを高めるために我慢できることは何か
- プライバシーを保護する組織のスキルと能力ならびに倫理観への信頼度
- プライバシーに関する行政の役割とスタンスへの認識
- 自分の将来のプライバシーに関する信頼度

※1）
日本、中国、インド、オーストラリア・ニュージーランド、英国、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、中東(UAE、サウジアラビア、カタール)、ロシア、ブラジル、メキシコ、米国、カナダ。(オーストラリア・ニュージーランドは合わせて一国としています。中東地区は、UAE、サウジアラビア、カタールを合わせて一国としています)

※2）例: 日本のアンケート対象者



3. ポイントとなる調査結果

調査の結果から、いくつか焦点を当てるべきポイントを列挙します。

(1) 世界の消費者はデジタル技術の利便性に高い価値を置いている一方で、その代償にプライバシーを犠牲にすることは避けたい

インターネットから享受されるメリットは様々ありますが、そのメリットと引き替えにプライバシーを犠牲にして良いと考えている消費者は殆どいません。それぞれのメリットに対して価値を感じ取っていることは、情報や知識へのアクセス性向上の91%を筆頭に、軒並み高い数値を指し示しているのに対し、それぞれのメリットに対してプライバシーを犠牲にしても良いという回答は30%台を最低限として、低い数値となっています。

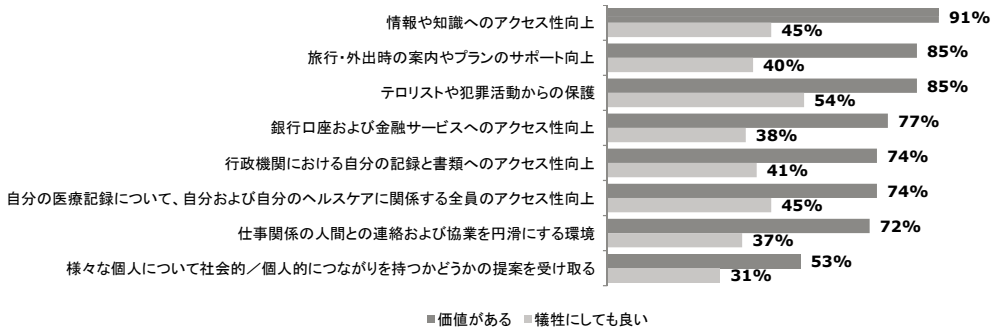


図1　利便性の価値および利便性の代償としてプライバシーを犠牲にできるかどうか

なお、単純な「利便性と使いやすさ向上の代償として若干のプライバシーを犠牲にしても良いと思いますか?」という質問に対して、日本は「いいえ」と答える消費者が35%しかおらず、比較対象国15カ国の中で、一番低い数値となっています。

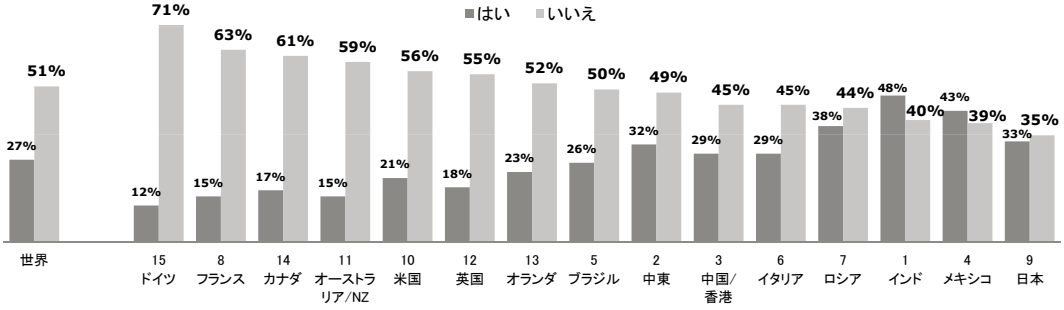


図2　利便性と使いやすさの向上の代償として若干のプライバシーを犠牲にしても良いと思いますか？

(2) 消費者は不正アクセスなどを経験しているにも関わらず、その多くの人が保護のための対策を行っていない

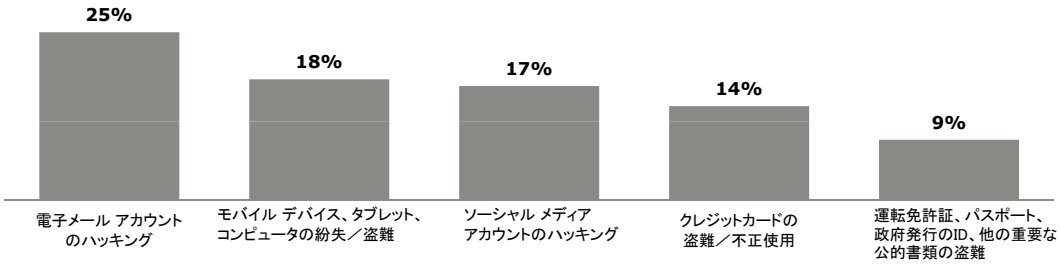


図3 データへの不正アクセスを経験したことがある

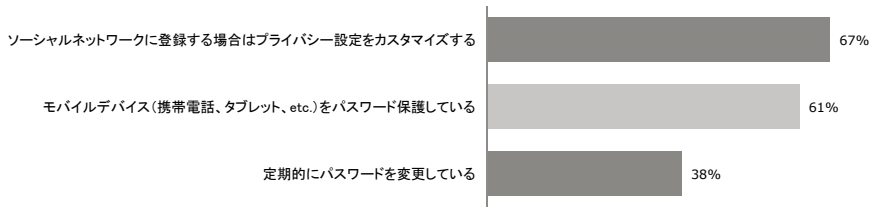


図4 プライバシー保護のための対策

回答者の多数が何らかの形でデータへの不正アクセスを経験しているにも関わらず（電子メール アカウントのハッキング、モバイル デバイスの紛失／盗難、ソーシャルメディア アカウントのハッキングなど）、その多くの人が保護のための対策を行っていないことがわかりました。図4はグローバルの結果ですが、日本の場合はさらに対策度合いが低く、ソーシャルネットワークのプライバシー設定のカスタマイズを実施している消費者は50%、モバイルデバイスをパスワードで保護している消費者は36%、定期的にパスワードを変更している消費者は23%しかおらず、調査した国の中ではいずれも最下位となっています。

(3) 利用者タイプ別の調査結果について

消費者がメリットを受けるインターネットサービスは様々ですが、享受するサービスを下記の6タイプに分けて調査しました。

- 公共サービス利用者
- 医療関連サービス利用者
- 金融サービス利用者
- 会社の従業員としてのサービス利用者
- 一般のｅコマース利用者
- ソーシャル利用者

それぞれの利用者に対しての質問への回答を回収した結果は以下のようになり、消費者は比較的ソーシャルサービスに対してプライバシーを保護するためのスキルや倫理観に疑いを持っており、また今後のプライバシー維持に対しても不安を持つ人が多いことがわかりました。

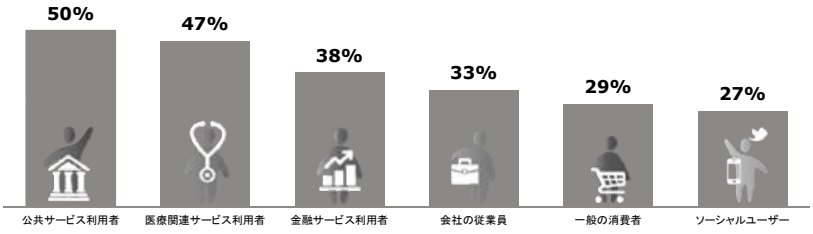


図5　各サービスに対するプライバシーを保護するスキルと信頼度

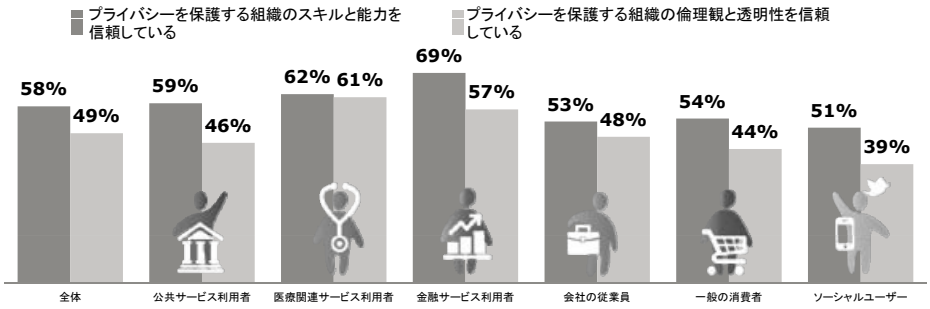


図6　各サービスに対してプライバシーを犠牲にしても良いに同意する割合

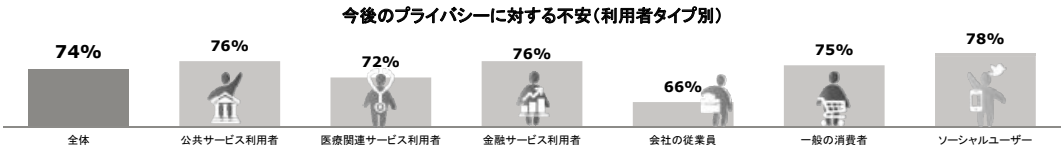


図7　各サービスに対して今後５年間でプライバシーの維持が難しいことに同意する割合

(4) 日本の消費者は自国の様々な行政機関が、一般市民のプライバシーを保護するための作業を行っていると思っていない

インドや中東、オランダなどの国々は50%以上が自国の政府機関が一般市民のプライバシーを保護するための作業を行っていると思っているのに対して、日本は調査国の中でも一番低い17%となっています。

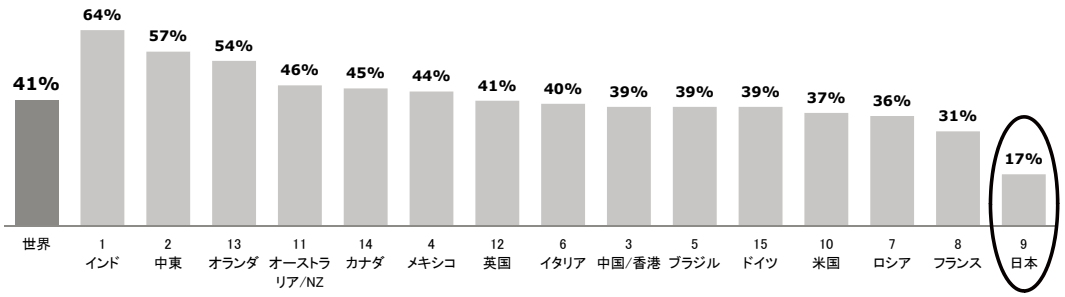


図8 総合的に、自国の様々な行政機関は一般市民のプライバシーを保護するための作業を行っていると思うに同意する割合

4. 消費者の意識

消費者には、インターネットのメリットを享受したいがプライバシー情報は提供したくない、プライバシー情報は流出したくないが必要な対策は実施していないというような、相反することを望む（矛盾した）傾向にあることがわかります。また、ソーシャルサービスのプライバシーを保護するスキルや信頼度が低いとしながらも、現在のソーシャルメディアはその殆どがアカウント数を伸ばし、投稿される数も右肩上がりとなっており、こちらも相反する行動が見受けられることもわかりました。さらに、世界のデータと比較して、日本が特出して低いものとして、行政機関に対するプライバシー保護への取り組みが実施されていると感じていない結果が出ています。

5. 企業・行政機関と消費者に求められる意識

サービスプロバイダや企業は、プライバシー保護に対して確固たる姿勢で取り組むことにより消費者の信頼を勝ち取っていくことと、サービスのパフォーマンスや能力を損なうことなくプライバシー保護能力を高めることが求められます。行政機関はプライバシー保護に対する取り組みを、消費者へ浸透させる（説明する）ことが必要と考えられます。

また、消費者は、常日頃からプライバシーに関する話題にアンテナを張って情報収集に務め、自分のプライバシーは自分で守るということを忘れないよう取り組む必要があります。取り組めるプライバシー保護対策に積極的に取り組み、時には自分独自のプライバシーの境界線を決めて不必要なプライバシー情報を提供しないように心がけることが大事です。

しかし、昨今の状況では、情報漏えいやプライバシーの侵害に関する事故や事件が後を絶ちません。サービスプロバイダなどの企業と行政機関ならびに消費者は、活発で継続的な対話を実施することで、プライバシーが保護されるよう努める必要があります。

未来につなげる心のセキュリティ

ドコモ・システムズ株式会社
山畳　秀人

はじめに

2014年7月に大手通信教育会社にて、2000万件を超える、大量の顧客情報流出事件が発生しました。なぜそのような事件が起きてしまったのでしょうか。

顧客データベースのシステム操作権限を持つ業務委託先社員は、私生活の中で金銭面に苦しんでいました。扱っている顧客情報を不正に持ち出し、名簿業者に販売することを画策しているとは、周囲の人は誰も気が付くことができませんでした。顧客情報の不正持出防止のために導入していたセキュリティシステムは、最新のスマートフォン対策を行っていなかったため、スマートフォンを通して、1年間も不正持出を許すこととなってしまったのです。

たとえ、高度なセキュリティシステムを構築しても、コンピュータデバイスの進化スピードに合わせられなければ、権限者のモラルに依存するしかありません。セキュリティルールを理解させるだけでなく、不正を引き起こす人間心理を理解し、心のセキュリティ強化に向けた対策が、より重要な時代になってきたと言えます。

本稿は、私見ではありますが、心のセキュリティのあり方に関して、議論していくきっかけになれば幸いです。

不正行為を早期発見するために

不正行為に至る可能性のある社員、不正行為を働いている社員を早期発見するためには、どのような対策が必要なのでしょうか。セキュリティ研修で理解度テストを行っても、１００点満点を取れば、問題なしとなります。セキュリティルールを理解しているので、ヒューマンエラーも少なく、要注意人物とはならないかもしれません。ずる賢ければ、形式的になっているルールの穴をかいくぐる方法に気づき、その方法を秘匿し、チャンスをうかがっているかもしれません。悪意に気づかれないよう、まじめな言動を心掛け、油断させてくるかもしれません。

そのような、要注意人物の存在に気づく方法はないのでしょうか。要注意人物を改心させ、心のセキュリティを育成する方法はないのでしょうか。

人のなにげない表情、言動から、隠された心情を読み解くことができれば、不正に至る前に対処ができるかもしれません。私生活での苦境を早期に気づいてあげることができれば、周囲のフォローにより、不正行為に至らずにすむのかもしれません。

不正防止に向けたポイント
① なにげない表情、言動の変化に注意する
② 隠された心情を読み解く
③ 私生活の苦境に早期に気づく
④ 周囲のフォローで不正行為を予防する

心理プロファイリング手法の活用

隠された心情に気づき、見えない私生活での問題を見抜く、「プロファイリング」という専門能力を持った人たちがいます。警察等の犯罪捜査で活躍されている方が多いかと思われますが、一般的な研修講師においても、心理面のプロファイリング能力を用いながら活躍されている方もいます。この心理プロファイリング手法を用いて、不正行為に至る可能性のある社員を、早期発見、対処する手順を考察してみました。

最初に、自意識のコントロール状況を確認します。仕事中の意識と私生活の意識にアンバランスがある場合、そのギャップから生じるストレス発散をどのように行っているかで、心理面のリスクが見えてきます。ギャップがなければ大丈夫というわけではなく、本人に自覚がない場合もあり、自己観察できていない場合は要注意です。

次に、心の弱みに対する自覚状況を確認していきます。心理誘導に弱い部分を自覚できていない場合は、無意識に不正に加担してしまう場合があります。強い思い込みや特定の感情に固執しやすいことを自覚できていない場合は、突発的に不正行為に至りやすいので要注意です。

最後に、組織と個人の価値観の違いから生じる心理矛盾がないか確認していきます。組織の命令は守るべきとわかっていても、私生活の苦境脱出を優先させたいという心理矛盾に至っている場合は要注意です。愚痴を何も言わず、心理矛盾をひとりでかかえこんでいる場合も注意する必要があります。

これら、心理プロファイリングによるチェック内容を参考に、周囲の社員、委託先社員へ気配りをしていただくことで、不正防止につながるものと思われます。

心理プロファイリング・チェックポイント
① 仕事意識と私生活意識にギャップがないか
② ギャップのストレス解消方法に問題はないか
③ 心の弱みを自覚できているか
④ 心理矛盾をかかえこんでいないか

心のセキュリティ研修の進め方

心のセキュリティを向上させるためには、各個人が努力するだけでは不十分で、社員や委託先との間で、心のセキュリティのあり方をディスカッションし、不正心理に至らないよう相互フォローしていくことが重要となります。

心理プロファイリング手順を参考に、研修形式で展開していく方法について考察してみました。

最初に、意識の裏表に関するテーマに取り組みます。仕事意識と私生活意識のギャップとストレス発散方法を共有していくことで、不正に至る動機につなげないための工夫を生み出していきます。

次に、心の弱みと心理矛盾に関するテーマに取り組みます。不正への心理誘導パターンを共有し、強い思い込みや特定の感情から生じる心理矛盾が、どのようなリスクを生み出すのか想像しながら、想定外の事態に備えられるようにしていきます。

最後に、組織と個人で取り組む、心のセキュリティのあり方についてディスカッションしていくことで、各自の心の弱さを補完しあえる組織風土作りにつなげていきます。

心のセキュリティ研修ステップ	
1	意識の裏表を持つ動機を探る
2	不正行為に至る心理矛盾を分析する
3	心のセキュリティのあり方を考える

心のC－I－A

心のセキュリティを向上させていくための具体的な指針は、心理学方面では整備されていないため、情報セキュリティの指針である、C－I－Aに準拠し、情報資産を心に置き換えて定義してみます。

C（機密性）は、情報資産を守るためのアクセスコントロール、暗号化等を行う指針で、心理面でも同様に、秘密を守る心がけを持ち、信頼できる相手を選び、相手に応じた心の開示方法を考えるようにしていきます。

I（完全性）は、情報資産の改ざんを防ぐためのチェック、不正操作監視等を行う指針で、心理面でも同様に、不正を起こさない心がけを持ち、不正な心理誘導や思考操作で心理矛盾を持っていないか、自分自身の心情を確認するようにしていきます。

A（可用性）は、システムの不具合に備え、いつでも情報資産にアクセスできるための二重化、バックアップ対策等を行う指針で、心理面でも同様に、柔軟に対応する心がけを持ち、ひとつの考え方にこだわらず、感情に固執せず、反省しながら間違いを正していく意志を持ち続けるようにしていきます。

情報セキュリティを意識する際に、自身の心とも向き合うことが、心のC－I－Aの基本動作となり、各自の心模様に合った対策を考えていただければと思います。

心のC－I－A		
C	機密性	秘密を守る心がけ
I	完全性	不正を起こさない心がけ
A	可用性	柔軟に対応する心がけ

脳とコンピュータがつながる未来

この先、コンピュータを扱う人の心は、どのように進化していくことができるのでしょうか。コンピュータ技術の進化に、追随していけるのでしょうか。少し先の未来のことについて考察してみたいと思います。

2045年頃には「シンギュラリティ」と呼ばれる技術的特異点を迎え、コンピュータが人間の脳をシミュレーションできるようになり、人工知能に依存する時代になると予測されています。脳神経科学も進化し続けており、脳神経ネットワークを通して記憶をコンピュータにアップロードしたり、ダウンロードしたりできるようになり、100年後あたりでは、人の心と心をつなぐ、心のインターネット時代が実現できるのではないかと予測されています。

セキュリティ技術者であれば、そのような時代に何が問題となるか、容易に想像できると思います。コンピュータインシデントと同様に、心へのサイバーアタック、不正アクセス、ウイルス感染、記憶改ざん等のセキュリティ脅威が発生し、人の心にもコンピュータセキュリティと同様のセキュリティ機能の構築が必要になるのではないでしょうか。

心のインターネットから流入してくる感覚、感情、思考をフィルタリングする、心のファイアウォール機能。正常なコミュニケーションに見せかけた不正な心理操作から心を守る、心の不正検知機能。心を崩壊させる感情や思考の埋め込みを排除するための、心のアンチウイルス機能。これら心のセキュリティ機能を、心のインターネット時代が始まる前までに、人の心に実装していくことはできるのでしょうか。

心のセキュリティ機能		
C	機密性	心のファイアウォール
I	完全性	心の不正検知
A	可用性	心のアンチウイルス

心のセキュリティ発展に向けて

現代において、人の心の中にも「無意識」という心のインターネットのような世界があります。無意識に生じる様々な感覚、あふれ出る感情、とりとめのない発想を、無意識のインターネット側からの情報と仮定すれば、それらを「意識」というクライアント機能で受け取って選別し、認識していることになります。「意識」では、特定の感覚ネットワークに接続し、不要な感情パケットを制御し、必要な発想データのみをダウンロードしていきます。無意識の心のインターネット側には、意識を守るためのセキュリティ機能が存在していて、過剰な感覚、感情、妄想を発生させないよう制御しています。このように、セキリティ技術者の視点で心をリバースエンジニアリングしていくことで、コンピュータに劣らない、心の潜在能力が解明されていくのかもしれません。

心のC－I－Aを定着化させ、心のセキュリティ機能を育成し、無意識に動いている心のセキュリティ機能とも連携できるようになるためには、どのくらいの年数がかかるのでしょうか。

心のC－I－Aについては、浸透に向けて努力していくことで、企業社員を中心に、数年程度で定着化が期待できると思われます。

高度な心のセキュリティ機能を身に着けるためには、幼少の頃から本能レベルの訓練が必要になるかもしれません。そのためには、親たちの理解を得る必要があります。親たちの理解を得るためには、親自身が子供時代に学校教育の中で、心のセキュリティの必要性を学ばなければ、育成もできないと思われます。学校教育の中に組み込むためには、政府の理解も必要です。政府の理解を得るためには、根拠のある実証実験が必要となります。

心のセキュリティ展開ステップ	
1	企業に心のC－I－Aを定着化
2	政府による心のセキュリティ研究開始
3	学校教育制度への組み込み
4	親による幼少教育の定着化

現実的には、心のセキュリティ機能実装の早期展開は困難で、心のインターネット時代を迎えた時に、心のセキュリティ事件・事故が発生し、コンピュータセキュリティ時代と同様に、遅れながら対策をとっていくのかもしれません。

数世代にわたる研究課題

心のインターネット時代を100年後と仮定すれば、その間にどのような課題が発生するのでしょうか。未来のことは誰にもわかりませんが、予測して備えることも重要かと思われます。

2045年頃のシンギュラリティによる影響前後で課題は変わるものと推測され、脳神経科学の発展によって、心がインターネットに接続できるようになる前後でも、課題が異なると思われます。それら課題分類で世代を分けると4世代となります。

世代を超えて実現させていく、心のセキュリティの研究については、有志による「心のセキュリティ研究会」でとりまとめた内容を参照ください。

心のセキュリティ世代	
第一世代	シンギュラリティ前
第二世代	シンギュラリティ後
第三世代	心のインターネット前
第四世代	心のインターネット後

出典：心のセキュリティ研究会
URL：http://security.cocoroai.net/

おわりに

コンピュータ技術の進化にセキュリティ対策技術は遅れをとりながら、人のモラルに依存するスタイルは、今後も変わらないかもしれません。人の心には潜在的な脆弱性があり、教育による理性でセキュリティマインドを保っているのが現状です。セキュリティルールを理解させるだけでなく、人間心理を理解し、心の脆弱性対策を行うことが求められています。2045年頃の「シンギュラリティ」と呼ばれる技術的特異点を超えたあたりから、脳とコンピュータがつながり始め、心と心をつなぐインターネット時代が幕を開けようとしています。人の意識レベルではコントロールできない、無意識レベルでのセキュリティ対策が求められ、対策の遅れは心の崩壊につながります。人の心は簡単に進化するものでなく、数世代かけて計画的に心のセキュリティ機能を開発していく必要があると思われます。

未来の子孫のために、どのような心のセキュリティ対策を残していくことができるのでしょうか。今しかできないこと、今だからできることに、それぞれの立場、役割の中で、共に取り組んでいきましょう。

JNSA ワーキンググループ紹介

中小企業向け情報セキュリティポリシーサンプル作成 WG

WG リーダー
富士通関西中部ネットテック株式会社　嶋倉　文裕

■ 13 年ぶりの改版

情報セキュリティポリシーサンプル 0.92a 版は 2002 年の作成から12 年を経過しておりますが、今なお根強い人気がありJNSAの公開サイトへのアクセスが毎月 1000 件を超える一方、改訂要望も多い状況です。

そこで、当WGは、中小企業・零細企業を対象に情報セキュリティ対策の支援ツールの位置づけで、クラウドやスマートデバイス、ＳＮＳといった新しい技術を取り込むと同時に、更新されたISO/IEC27002:2013とも対応づけた情報セキュリティポリシーサンプルを0.92a 版を元に改版します。

■ 目標

西日本支部では昨年度、中小企業の情報セキュリティレベルの維持・向上を支援するツールとして作成した「情報セキュリティチェックシート」（以下チェックシート）、「出社してから退社するまで中小企業の情報セキュリティ対策実践手引き」（以下実践手引き）にクラウドやスマートデバイス、ＳＮＳといった新しいIT 環境の取り込みと、「チェックシート」、「実践手引き」の相互関係、活用についての考え方の再整理を行い、改版を行いました。

今回、改版する情報セキュリティポリシーサンプル（以下ポリシーサンプル）は、「チェックシート」、「実践手引き」と合わせて、西日本支部が提供する中小企業向け情報セキュリティ対策支援ツール三部作とします。

なお、本年度は、対策標準の雛形を作成します。

■ 活動内容

今年度は以下のスケジュールで活動を進めます。

- 情報セキュリティ対策標準の作成
  ～2014 年 11 月
- 情報セキュリティ対策標準の解説書の作成
  2014 年 12 月～2015 年 1 月
- 最終まとめ
  2015 年 2 月～2015 年 4 月

■ ポリシーサンプルの特徴

今回のポリシーサンプルは、0.92a 版の改版ではありますが、「チェックシート」、「実践手引き」と紐づけ、利用者は中小企業を想定しています。

そのため、改版する対策標準は「チェックシート」、「実践手引き」との関連付けにより見直しを行い、0.92a で 29 個ある対策標準を 18 個に再整理すると共に、今回は対策標準項目を管理者向け、利用者向けに分類し、以下のように作成する予定です。

◆ 新対策標準項目

(1) 管理者向け

①情報セキュリティ基本方針
②人的管理標準
③委託先管理標準
④文書管理標準
⑤監査標準
⑥物理的管理標準
⑦リスクマネジメント標準
⑧インシデント管理
⑨変更管理
⑩IT 継続
⑪システム開発標準
⑫システム管理標準
⑬ネットワーク管理標準
⑭スマートデバイス管理標準

(2) 利用者側向け

⑮システム利用標準
⑯ネットワーク利用標準
⑰スマートデバイス利用標準
⑱SNS 利用標準

JNSA ワーキンググループ紹介

◆ 改版作業における留意点

今後、再整理した対策標準をWGで分担、執筆しますが、今回の執筆で重視しているのは、以下の2点です。

・ISO/IEC 2702:2013の要求項目を意識すること。
・「日常の運用で確認すべき事項」を意識すること。

「日常の運用で確認すべき事項」とは、実際には手順書（プロシージャ）にまとめられるものではありません。しかし、具体的な手続きまで記載しなくとも、確認すべき事項を整理することにより、読者が“日々の運用”の重要性をより強く意識し、情報セキュリティの維持・向上に向けた活動をして頂けるのでは、と期待して敢えて含めました。

中小企業向け情報セキュリティポリシーサンプル作成WG

リーダー以降、50音順

氏名	社名
リーダー 嶋倉　文裕	富士通関西中部ネットテック株式会社
井上　陽一	西日本支部長
大財　健治	株式会社KKC情報システム
河野　愛	株式会社インターネットイニシアティブ
久保　寧	富士通関西中部ネットテック株式会社
小柴　宏記	株式会社KKC情報システム
小山　正人	キヤノンITソリューションズ株式会社
西川　和予	株式会社GENUSION
元持　哲郎	アイネット・システムズ株式会社
吉崎　大輔	日本電気株式会社

（JNSA会員）

■ 最後に

西日本支部では、「チェックシート」、「実践手引き」WGはしばし休止し、本WGと「企画・運営WG」の2つのWGを西日本支部メンバー全員で盛り立てていきます。時には飲み会なども行っています。「参加したい」「ちょっと興味がある」という方がいらっしゃいましたら、お気軽にお声掛けください。

次の写真は、一昨年、情報セキュリティチェックシートWG終了後にメンバーで五山送り火を鑑賞したときのものです。

WG終了後の京都・五山送り火鑑賞

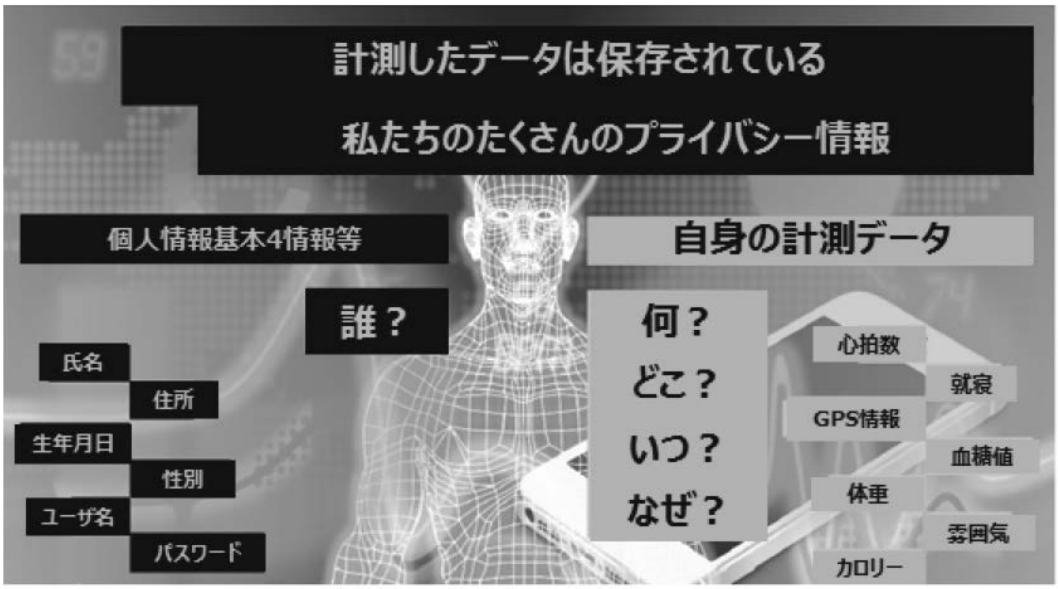
IoT セキュリティ WG

WG リーダー
株式会社シマンテック　兜森　清忠

メディアを通じて Internet of Things（IoT：もののインターネット）という言葉を目にする機会が増えました。2020 年の予想では、500 億個という現在の倍以上の機器がインターネットに接続されるということです。現状の IoT 機器の種別とそのセキュリティ対策状況を整理するとともに、今後、増えうる機器が安全であることと新たなイノベーションにより接続される機器のセキュリティについて考えるために、2014 年 4 月に本ワーキンググループを発足しました。

■ IoT の期待とセキュリティの必要性

多くの業種で活用される IoT 機器は、センサーの小型化、パフォーマンスの向上と価格の低下から、活用が容易でありかつ有益な情報を収集しやすくなります。収集するデータは、ビッグデータとして活用され、利用者の利便性のさらなる向上が期待されています。その一方で、収集されるデータは、利用者のセンシティブな情報を含むことになり、情報漏えいやデータの詐称等により不利益を被る人がでる可能性があります。そのようなセキュリティインシデントの発生を防ぐ必要があります。



■ WG の活動

2014 年 4 月に発足し、本年度は、次の項目について活動を予定しています。

- IoT 市場調査
- IoT アーキテクチャとセキュリティ範囲
- 脅威の洗い出し
- 対象の調査
- 調査報告書のとりまとめ

以降、各項目の概要を解説します。

JNSA ワーキンググループ紹介

■ IoT 市場調査

IoT は、新たなイノベーションではなく、これまでの技術も含んだものです。IoT は、自動車の車載器、ウェアラブル端末等の家電、スマートメータ等のエネルギー、POS 端末のリテール等、広範囲にわたるものです。産業別のカテゴリーに分類し、どのような団体が標準化等を行い、どのようなガイドラインが存在するのかを整理していきます。

※ 図は、分類のイメージです。

■ IoT アーキテクチャとセキュリティ範囲

IoT のアーキテクチャとビッグデータを活用するクラウドサービス連携等のシステムの構成をパターン化します。その中から、IoT のセキュリティとして考慮すべきことを対象として絞りこみます。この中では、機器を分解し直接回路を触れることによる脅威（コンセプトベースでの脅威）よりも日常起こりうるものを対象の範囲に考えます。

■ 脅威の洗い出し

脅威については、各団体により整理されているものがありますが、システム形態により脅威も変わるため WG にてレビューを検討しています。特定の IoT システムを想定し、NIST が作成した枠組みによるチェックと IoT 機器をダイレクトな視点での新たな脅威の洗い出しを行います。

■ 対象の調査

市場で販売されている IoT 機器の OS、ミドルウェア等を調査します。調査の中から特定の IoT 機器を選択し、設置から廃棄までのライフサイクルの中で考慮すべきセキュリティについて整理します。例えば、セキュリティパッチの適用方法は確立しているのかどうか、そして、その運用上の課題の有無を整理します。

■ 調査報告書のとりまとめ

本年度の目標として、現状の IoT の産業別の分類とそれぞれのセキュリティ対策・ガイドラインの特徴を整理します。そして、JNSA のターゲットスコープについての現状の課題等を報告書として取りまとめます。そして、次年度以降の計画のインプット情報とします。

■ 最後に

2020 年東京オリンピックの開催時期に、多くの海外からの観戦者がインターネット接続機器を持ち込むことになります。また、インターネットは、国境という境界がなく、国内のサーバ等機器にアクセスできます。そのような状況の中で、IoT 機器を安心安全に利用できるように、既存の IoT 機器と将来的に世にでる IoT 機器に対する対策等の調査をします。ぜひ、皆様も一緒に今後のもののイノベーションに対するセキュリティ対策について考えてみませんか。

IoT セキュリティ WG メンバー一覧

名前	会社名
リーダー 兜森　清忠	株式会社シマンテック
中原　歌織	アドソル日進株式会社
二木　真明	アルティア・セキュリティ・コンサルティング
水村　明博	EMC ジャパン株式会社
加藤　雅彦	株式会社インターネットイニシアティブ
亀田　勇歩	SCSK 株式会社
境　　稔	SCSK 株式会社
玉木　誠	SCSK 株式会社
手塚　信之	SCSK 株式会社
有村　浩一	JPCERT コーディネーションセンター
此村　康幸	JPCERT コーディネーションセンター
満永　拓邦	JPCERT コーディネーションセンター
磯田　弘司	株式会社シマンテック
桐山　隼人	株式会社シマンテック
細田　将	セコム株式会社

名前	会社名
半田　富己男	大日本印刷株式会社
高橋　一行	トレンドマイクロ株式会社
林　　憲明	トレンドマイクロ株式会社
酒井　美香	日本 IBM システムズ・エンジニアリング株式会社
島　　成佳	日本電気株式会社
杉浦　昌	日本電気株式会社
福田　尚弘	パナソニック株式会社
堀部　千壽	パナソニック株式会社
川上　昌俊	株式会社ラック
篠原　崇宏	株式会社ラック
芝村　崇	株式会社ラック
東海林　昌幸	株式会社ラック
鈴木　翔	株式会社ラック
又江原　恭彦	株式会社ラック
山下　勇太	株式会社ラック

会員企業ご紹介38

アルテア・セキュリティ・コンサルティング

http://www.altairsecurity.com

JNSA会員の皆様、はじめまして。ITセキュリティコンサルタント　二木　真明です。アルテア・セキュリティ・コンサルティングは私の個人事業としての商号です。2012年秋より個人事業主として、JNSAに参加させていただいております。前職を含めれば、そろそろ10年以上、JNSAに参加させていただいており、よくご存じの皆様も多いですが、改めて私自身と、その事業のご紹介をさせていただきます。

IT業界へのきっかけは、30年以上前に当時、製品化されはじめた初期の個人用マイクロコンピュータにはまり、Z80アセンブラ（というより16進の機械語？）を覚えたのがきっかけです。以後、その知識を生かして制御系システムのプログラマーを皮切りに、UNIX系、C言語による開発など、いわゆるオープン系システムの先頭を走ってきました。開発したシステムは、工場内の機械制御、その統括から特殊用途のプログラミング言語とその処理系、UNIX系のデバイスドライバー、在庫管理や販売管理システムなどのビジネスアプリケーション、製薬業向けのデータ管理システムなど多岐にわたります。そんな中、たまたま当時いた会社のインターネット接続に伴って、FreeBSDカーネルをベースに自前で作ったファイアウォールシステムに手を加え、製品化したのが、セキュリティ領域へ進むきっかけでした。

2000年以降、12年ほど商社系のIT企業でセキュリティ事業の立ち上げや、主に米国シリコンバレーのベンチャー企業製品の技術評価、日本市場投入に当たってのサポート構築、日本向けの製品改良やローカライズなどの支援といった業務を行うかたわら、IT部門にも籍を置きつつ、自社内のセキュリティ強化、自社SOCの立ち上げといった技術面だけでなく、様々なセキュリティマネジメント上の課題、インシデントへの対応などにも取り組んできました。とりわけ、ログ管理やSIEMの取り扱い、インシデント対応時の統括や各種ポリシー、手順書、マニュアルなどの文書作りに強みを持ちます。

2012年、独立して個人でコンサルタント業を始めたのは、こうしたオールラウンドの経験を、様々な形で社会に還元したいという思いからです。会社という組織の中ではなかなかできない様々なチャレンジをしたいと考えています。現在、皆様がお持ちの様々な課題解決のお手伝いができると思いますので、お気軽にお声がけください。

プロフィール

二木　真明（ふたぎ　まさあき）
CISSP, CISA
JNSA幹事、日本クラウドセキュリティアライアンス代表理事
埼玉県警察本部サイバー犯罪対策技術顧問

お問い合わせ先
メール：info@altairdesurity.com
電話/FAX：045-633-1542
Web: http://www.altairsecurity.com

ユニアデックス株式会社

http://www.uniadex.co.jp

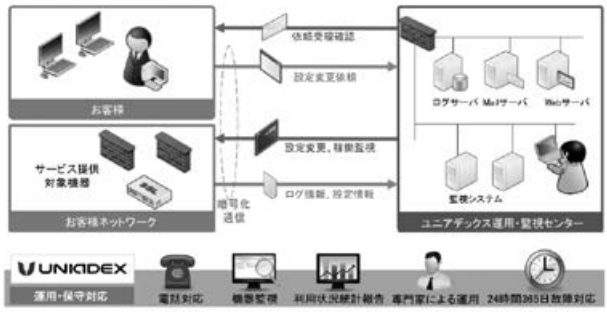
2014年3月にユニアデックス株式会社と株式会社ネットマークスは、「インフラトータルサービスNo.1」を目指し合併統合致しました。
サーバー、ネットワーク、セキュリティー、デバイスなどをお客様のご要望に応じて広範にご提供を行います。また、システムインテグレーションに付随してセキュリティーマネジメントサービスもご用意し、お客様に安心してご利用頂ける環境をご提供致します。

セキュリティー運用サービス

お客様に代わってセキュリティーシステムの構築･運用･管理を支援･実施する各種セキュリティーアウトソーシングサービスをご提供します。リモートからのサービス提供のためオンサイトサービスにはない手軽さで、お客様が抱える人材･スキル・コストの問題を解決し、セキュリティーの強化を実現します。

■ マネージドセキュリティーサービス

SOCでのセキュリティー監視･運用をメインとしたサービスで、IDS/IPS製品やマルウエア対策製品など、セキュリティーアナリストでの対応が必要となる日常運用を支援致します。



■機器運用代行サービス

Firewall製品やUTM製品、VPN製品に対し、維持管理に必要となる業務を代行するサービスとなります。機器の稼働監視やポリシー設定変更、OSのリモートバージョンアップ、障害対応、レポーティングなどをご提供します。

■認証代行サービス

セキュアな認証機能をSaaS形式でご提供します。お客様側のリモートアクセスゲートウェイ機器の認証先設定を弊社認証サーバーにして頂くだけで、ワンタイムパスワード認証機能をご利用頂けます。

ICTセキュリティーアセスメントサービス

情報セキュリティーの国際標準であるISO/IEC27001の他、金融機関、政府機関、クレジットカード番号取扱い企業など、業態の求める基準やガイドライン等に基づいて、お客様の情報システムの実装面、運用面における情報セキュリティー対策状況を調査します。その結果に基づいて課題の明確化、改善案と対策実行計画案の提示などを行い、情報セキュリティーのレベルアップを実現します。

サービスメニュー		
情報セキュリティーポリシー策定支援	ISMS、Pマーク認証取得支援	情報セキュリティーアドバイザリー
情報セキュリティー教育	PCIDSS準拠支援	情報セキュリティー監査
セキュリティー診断		

お問い合わせ先：ユニアデックス株式会社
〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1
TEL 03-5546-4900（大代表） URL http://www.uniadex.co.jp/service/security/

セイコーソリューションズ株式会社
http://www.seiko-sol.co.jp/

SEIKO

セイコーソリューションズ株式会社は、セイコーホールディングス株式会社（SHD）100% 出資の子会社で、SHD グループ唯一のソリューションカンパニーとして、正確な時刻情報とつなぐ技術で国内外のお客様に幅広いサービスを提供しています。

膨大な情報資産を「信頼の時刻」で管理する

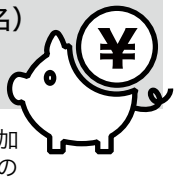
デジタルエビデンス・ソリューションのセイコーです

仮想空間に情報が氾濫し、リアルタイムでデータがやりとりされる ICT 社会において、
さまざまなビジネスの現場でデジタルデータが本物であることを証明する方法が求められています。
セイコーのデジタルエビデンス・ソリューションは、
人類共通の尺度である「時」を「信頼の時刻」として提供することで、
安全で安心な社会づくりに貢献するさまざまなサービスをラインナップ。
タイムスタンプや電子署名といったサービスで、お客さまの事業の貴重なデジタルデータを守ります。

（認定タイムスタンプ＋電子署名）× 契約書

保存が義務付けられている契約書を安全に電子化。さまざまなビジネスの現場でご利用いただいています。

（認定タイムスタンプ＋電子署名）× 証書



証書の電子配信により、コスト削減に加えて業務の効率を向上。幅広く金融の現場でご利用いただいています。

（認定タイムスタンプ＋電子署名）× 知的財産

先使用権の主張、冒認出願対策など、知的財産の存在証明を客観的なタイムスタンプで支援。幅広く研究開発の現場でご利用いただいています。

（認定タイムスタンプ＋電子署名）× 医療情報

否認対策、説明責任、訴訟対策といったさまざまなご要望に対応。幅広く医療の現場でご利用いただいています。

一般財団法人 日本データ通信協会の
「タイムビジネス信頼・安心認定制度」の認定を取得しています。

TA0004　SD0005

Cyber Time SEIKO

お問い合わせ先

セイコーソリューションズ株式会社
システムインテグレーション統括部　クロノトラスト部
〒261-8507　千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8　／　TEL　043-273-3342（担当：吉田、枝川、友田）

デジタルエビデンス・ソリューション専用サイト　➤➤➤ https://www.seiko-cybertime.jp/

株式会社アピリッツ

http://www.appirits.com

Appiritsの事業内容

アピリッツでは法人向けのシステム開発事業から長年にわたるWeb関連技術の追求により、EC関連開発、マーケティング支援、スマートフォンアプリ開発などの技術サービスから自社で企画、開発、運営まで手掛けるオンラインゲームの開発まで幅広くサービスを展開しております。多くの開発ノウハウに裏打ちされたセキュリティサービスは世の中ニーズに合わせ拡大をしております。

B2B

EC関連開発・ASP

- ECサイト構築パッケージ「エレコマ」
- ECアプリパッケージ「ポケコマ」
- サイト内検索ASPサービス
- 商品情報自動連携「モールコネクター」

マーケティング支援

- アクセス解析コンサルティング
- Google Analytics設定支援
- 画面設計・制作「デザプラ」
- Google Analyticsトレーニング

Webシステム開発

- コミュニティサイト開発
- 求人サイト開発

スマートフォンアプリ開発

- iOSアプリ開発
- Androidアプリ開発

セキュリティ関連サービス

- Webアプリケーション診断
- プラットフォーム診断
- スマートフォンアプリ診断
- クラウド型WAF
- セキュリティ監視・運用

B2C

オンラインゲーム開発・運用

海外向けオンラインゲーム開発・運用

式姫草子:中国語版

式姫の庭:英語版

Appiritsのセキュリティサービス

アピリッツでは多数のWebシステム開発/運用経験から蓄積したノウハウから、よりシステム開発の現場に根ざしたセキュリティ診断のサービスならびにセキュリティ運用サービスを提供しております。
アプリケーション・ネットワーク専門エンジニアがセキュリティ診断やセキュリティ運用を実施致します。

要件定義 → 設計 → 実装 → テスト → 運用

Appirits　Webシステム開発/運用

アピリッツのセキュリティサービス

セキュリティ診断

- WEBアプリケーション診断
- プラットフォーム診断
- スマートフォンアプリケーション診断
- ソフトウェアテスト受入テスト代行

- セキュリティ診断年間サポート
- SaaS型セキュリティ診断
- クラウド型WAF
- セキュリティ監視・運用

株式会社アピリッツ

TEL: 03-6696-1207 / FAX: 03-6696-1245
Mail: csl@appirits.com
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-20-3 代官山CAビル 1F
URL: http://www.appirits.com

JNSA 会員企業のサービス・製品・イベント情報です。

■製品紹介■

○WebALARM
～Webサイト改竄防止セキュリティパッケージ～

「あなたのWebサイトは安全ですか?」
とあるセキュリティ会社の上級副社長の「ウィルス対策ソフトは死んだ」という発言やウィルス対策ソフトの検知率は50%以下、また攻撃型マルウェアの平均潜伏期間は229日と言われています。
標的型攻撃や様々な脅威から、「WebALARM」は5つの機能（監視、自動リカバリ、アラート、証拠保全、データアップデート）であなたのWebサイトの安全性を守ります。

【製品情報詳細】
http://www.elock.co.jp/webalarm/webalarm1.html

◆お問い合わせ先◆
イーロックジャパン株式会社
TEL: 03-3265-1169
E-mail: info@elock.co.jp

○マルウェア自動解析システム
FFR yarai analyzer

FFR yarai analyzerは、標的型攻撃などに用いられる新しいタイプのマルウェアを自動解析し、脅威を可視化するための製品です。ネットワークゲートウェイやエンドポイントで検知された不審ファイル（マルウェア）を解析し、インシデント初動対応に必要な情報を取得可能です。
解析結果レポートは日本語で記載されており、検査ファイル投入から数分で自動的に出力されます。

【製品情報詳細】
http://www.ffri.jp/products/yarai_analyzer/index.htm

◆お問い合わせ先◆
株式会社ＦＦＲＩ　プロダクト営業部
TEL: 03-6277-1811
E-mail: sales@ffri.jp

■イベント紹介■

○ディアイティ　「サイバー攻撃対策セミナー 2014」
組織の存続を揺るがす内部犯罪！痕跡はログにあり！
～ログの相関分析で異常行動を素早く検知～

権限を有したユーザの不正行為は発見が困難で、情報漏えい被害が拡大してしまいます。最近の内部犯罪を例に傾向と対応方法の解説、およびシステムの様々なログを分析することにより内部犯罪の痕跡を短時間で自動的に見つけ出すソリューションをご紹介します。

【イベント情報詳細】
http://www.dit.co.jp/seminar/14apt/index.html

◆お問い合わせ先◆
株式会社ディアイティ　セミナー事務局
TEL: 03-5634-7651
E-mail: seminar@dit.co.jp

JNSA 2013年度活動報告会

2014年6月10日（火）、東京・ベルサール神田にて「JNSA 2013年度活動報告会」が開催されました。JNSAの部会・ワーキンググループより前年度の活動報告と今年度の活動計画を発表するとともに、JNSAの活動内容を会員以外にも広く周知する目的で毎年6月に開催しています。当日は205名の参加者をお迎えし、盛況のうちに終了いたしました。

今回の活動報告会では、毎年継続して活動しているワーキンググループだけでなく、本報告会での発表をもって長年の活動を終えるワーキンググループからの報告や、一年間の活動報告から活動の集大成といえる成果物の解説まで、多岐にわたる発表がありました。一方、新たに発足したワーキンググループの発表では、発足の経緯や活動目的を説明するとともに、ワーキンググループ活動への参加が呼びかけられました。

さらに終盤にはJNSA社会活動部会のメンバーを中心にパネルディスカッションを実施しました。昨今、WindowsXPのサポート終了に合わせたようにOpenSSL（HeartBleed）、DNSポイズニング、Struts等の重要な問題が次々と明らかになり、インターネットの“信頼”が大きく揺らぐこととなりました。これを受けて、JNSA内の専門家が現在の情報セキュリティの直視すべき問題を俯瞰し、セキュリティに関わる人や組織が取り組むべき課題と方策について、ディスカッションを展開しました。

社会活動部会パネルディスカッション「【緊急討論】揺らいだ“信頼”を支えるためにできること」

コーディネータ：高橋 正和 氏（日本マイクロソフト株式会社）
パネリスト：　二木 真明 氏（アルテア・セキュリティ・コンサルティング）
西尾 秀一 氏（株式会社エヌ・ティ・ティ・データ）
川口 修司 氏（株式会社三菱総合研究所）
丸山 司郎 氏（株式会社ラック）

活動報告会の発表資料はJNSAのウェブサイトで公開しています。ぜひあわせてご覧ください。
http://www.jnsa.org/seminar/2014/0610/index.html

JNSA 2013 年度活動報告会プログラム

2014年6月10日(火) 10:00～15:40　於: ベルサール神田

トラック1（Ｒｏｏｍ３＋４／定員：１６０名）	トラック2（Ｒｏｏｍ１／定員：１２０名）
午前の部	
Ａ１【組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG】 10:00-10:15〈15分〉 「『組織で発生する不正・事故』に対する取り組みについて」 ＷＧリーダー：甘利　康文氏 （セコム株式会社　IS研究所）	
Ａ２【シンギュラリティ調査WG】 10:15-10:30〈15分〉 「コンピュータが本当に『考える』ようになる日」 ～人類200万年の進化を超えるのか～ ＷＧリーダー：広口　正之氏 （リコージャパン株式会社）	
Ａ３【セキュリティ市場調査WG】 10:30-11:00〈30分〉 「2013年度セキュリティ市場調査報告書より」 ～ 市場調査WG活動成果発表 ～ 浜　義晃氏 （株式会社イーセクター）	
休憩　（10分）	
Ａ４【セキュリティ被害調査WG】 11:10-11:40〈30分〉 「2013年度　セキュリティ被害調査ＷＧ活動報告」 ＷＧリーダー：大谷　尚通氏 （株式会社ＮＴＴデータ）	
Ａ５【IoTセキュリティWG】 11:40-12:00〈20分〉 「IoTセキュリティＷＧの活動について」 ＷＧリーダー：兜森　清忠氏 （株式会社シマンテック）	
・・・ 12:00～13:00 昼休み ・・・	
午後の部	
Ｂ１【電子署名WG】 13:00-13:20〈20分〉 「2013年度　電子署名ＷＧ成果報告」 ＷＧリーダー：宮崎　一哉氏 （三菱電機株式会社　情報技術総合研究所）	Ｃ１【情報セキュリティチェックシートＷＧ】 【出社してから退社するまでのリスク対策ＷＧ】 13:00-13:30〈30分〉 「中小企業向け『情報セキュリティ対策支援ツール』活用方法の解説」 情報セキュリティチェックシートＷＧリーダー：嶋倉　文裕氏 （富士通関西ネットテック株式会社） 出社してから退社するまでのリスク対策ＷＧリーダー： 元持　哲郎氏 （アイネット・システムズ株式会社）
Ｂ２【アイデンティティ管理WG】 13:20-13:50〈30分〉 「2013年度　アイデンティティ管理ＷＧ　成果報告」 ＷＧリーダー：宮川　晃一氏 （日本ビジネスシステムズ株式会社）	
休憩　（10分）	**休憩　（10分）**
Ｂ３【情報セキュリティ対策マップ検討ＷＧ】 14:00-14:30〈30分〉 「情報セキュリティ対策マップ検討ＷＧ最終活動報告」 ～目的の島、彼岸の川。究極のセキュリティ対策地図を追い続けた者たちが最後に見たものは～ ＷＧリーダー：奥原　雅之氏 （富士通株式会社）	Ｃ２【社会活動部会パネルディスカッション】 13:40-15:40〈120分〉 「『緊急討論』揺らいだ"信頼"を支えるためにできること」 コーディネータ：高橋　正和氏 （日本マイクロソフト株式会社） パネリスト：二木　真明氏 （アルテア・セキュリティ・コンサルティング） 西尾　秀一氏 （株式会社ＮＴＴデータ） 丸山　司郎氏 （株式会社ラック） ゲスト：川口　修司氏 （株式会社三菱総合研究所）
Ｂ４【セキュリティ理解度チェックＷＧ】 14:30-14:45〈15分〉 「情報セキュリティ教育に欠かすことのできない理解度チェック」 ＷＧリーダー：萩原　健太 氏 （トレンドマイクロ株式会社）	

事務局お知らせ
JNSA ANNOUNCE

主催セミナーのお知らせ

1. WG合同セミナー
主　催： NPO日本ネットワークセキュリティ協会
日　程： 2014年10月上旬（予定）
会　場： 未定

2. 日韓情報セキュリティシンポジウム
主　催： NPO日本ネットワークセキュリティ協会
韓国知識情報保安産業協会（KISIA）
日　程： 2014年11月7日（金）
会　場： フクラシア東京ステーション

後援・協賛イベントのお知らせ

1. 平成26年度情報モラル啓発セミナー
主　催： 中小企業庁、各地方経済産業局、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所
日程・会場：
2014年9月9日（火）：ホテルメトロポリタン盛岡
2014年9月25日（木）：岡山コンベンションセンター
2014年10月：富山県富山市
2014年11月：京都府京都市
2015年2月：埼玉県さいたま市

2. 時代を切り拓く新しいスキル標準体系 ～組織と個人の相互成長による価値創造をめざして～
主　催： 独立行政法人情報処理推進機構
日　程： 2014年9月10日（水）
会　場： 東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

3. “つながる”新産業創出セミナー ～加速するネットワーク社会の「攻め」と「守り」～
主　催： 経済産業省 中部経済産業局
日　程： 2014年9月12日（金）
会　場： 石川県地場産業振興センター

4. ID & IT Management Conference 2014
主　催： ノーサレンダー株式会社
日程・会場：
2014年9月17日（水）：ANAクラウンホテル大阪
2014年9月19日（金）：ANAインターコンチネンタルホテル東京

5. 「iコンピテンシ・ディクショナリ」普及全国セミナー
主　催： 特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会
日程・会場：
2014年9月18日（木）：名古屋 ウインクあいち
2014年9月25日（木）：福岡 福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター
2014年10月9日（木）：大阪 松下IMPビル
2014年10月23日（木）：仙台 ㈱日立ソリューションズ東日本
2014年10月28日（火）：広島 ㈱日立ソリューションズ西日本
2014年10月30日（木）：札幌 ACU
2014年11月13日（木）：沖縄 沖縄産業支援センター
2014年11月20日（木）：新潟 NICOプラザ

6. Email Security Conference 2014 東京・大阪

主　催：株式会社ナノオプト・メディア
日程・会場：
2014年10月3日（金）：秋葉原UDXカンファレンス
2014年10月17日（金）：グランフロント大阪

7. 情報セキュリティワークショップin越後湯沢2014

主　催：NPO新潟情報セキュリティ協会（ANISec）、情報セキュリティワークショップin越後湯沢実行委員会
日　程：2014年10月10日（金）～11日（土）
会　場：新潟県南魚沼郡湯沢町公民館、湯沢ニューオータニホテル

8. “つながる”新産業創出セミナー ～世界に誇れるセキュアなモノづくりに向けて～

主　催：経済産業省 中部経済産業局
日　程：2014年10月24日（金）
会　場：ポートメッセ名古屋

9. Gartner Symposium/ITxpo 2014

主　催：ガートナージャパン株式会社
日　程：2014年10月28日（火）～30日（木）
会　場：ホテル日航東京

10. かごしまITフェスタ

主　催：かごしまITフェスタ実行委員会
日　程：2014年11月15日（土）～16日（日）
会　場：鹿児島アリーナ

11. Internet Week 2014

主　催：一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JIPNIC）
日　程：2014年11月18日（火）～21日（金）
会　場：富士ソフトアキバプラザ

12. 第10回IPAひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール2014

主　催：独立行政法人情報処理推進機構
日　程：2014年4月1日（火）～11月30日（日）
作品募集期間：2014年4月1日（火）～9月8日（月）

13. APRICOT-APAN 2015

主　催：APRICOT-APAN 2015 日本実行委員会
日　程：2015年2月24日（火）～3月6日（金）
会　場：福岡国際会議場、JR博多シティ、他

JNSA 部会・WG2014 年度活動

1. 社会活動部会

部会長：西本逸郎 氏/株式会社ラック
副部会長：丸山司郎 氏/株式会社ラック

日本社会のサイバーセキュリティへの適応を推進するためメディア等を通じた情報発信や社会貢献活動、政府機関や海外組織との連携など、JNSAの社会的活動を推進する。

具体的には、JNSAとしての情報発信の後押し、パブコメ対応や行政との意見交換会、ワークショップ、勉強会や記者懇談会などの普及啓発活動、委託事業などの社会貢献活動、指導者育成や講師派遣などの外部組織支援、国際・他団体連携などを進める。

また「セキュリティしんだん」の発信も継続して行う他、今年度は新たにサイバー脅威の未来予測・発信プロジェクトに向けた検討を行う。

【未来予測検討プロジェクト】
（リーダー：唐沢勇輔 氏/ソースネクスト株式会社）

東京オリンピックを見据えた3～5年先の脅威予測を行い、書籍などの成果物を通じて社会への啓発を図る。

具体的な内容としては、下記を検討する。

・5年後のサイバー攻撃とは
・企業における情報セキュリティ対策
・家庭における情報セキュリティ対策
・脅威の技術動向など

＜予定成果物＞

・書籍「脅威の未来予測（仮）」の出版

【セキュリティ啓発WG】
（リーダー：松本照吾 氏/株式会社インフォセック）

「インターネット安全教室」の内容検討や運営サポート、広報活動の検討などを行う。

【指導者育成セミナー講師WG】
（リーダー：持田啓司 氏/株式会社大塚商会）

「中小企業向け指導者育成セミナー」のプログラム検討及びセミナー講師を行う。

2. 調査研究部会

部会長：加藤雅彦 氏/株式会社インターネットイニシアティブ

情報セキュリティにおける各種の調査および研究活動を行う。被害調査および市場調査を統計情報公開のための事

業として推進し、IPv6セキュリティ、スマートフォン、SNS、内部犯行、シンギュラリティといった様々なテーマについて調査研究を行い、適宜情報を公開する。勉強会、BoFなどについても必要性を考慮し随時行うこととする。

【セキュリティ被害調査WG】
（リーダー：大谷尚通 氏/株式会社NTTデータ）

個人情報漏えい編、発生確率編の調査を継続し、報告書を作成し公開する。2012年個人情報漏えい編、発生確率編、2013年個人情報漏えい編の調査報告書を作成し公開する。

＜予定成果物＞
・2012年調査報告書（個人情報漏えい編、発生確率編）
・2013年調査報告書（個人情報漏えい編）

【セキュリティ市場調査WG】
（リーダー：木城武康 氏/株式会社日立システムズ）

2004年度以来継続で行っている情報セキュリティ市場調査を、同じ仕組みで実施する。

＜予定成果物＞
・2014年度情報セキュリティ市場調査報告書

【ＩＰｖ６セキュリティ検証WG】
（リーダー：許先明 氏）

IPv4・IPv4/v6混在環境、IPv6 それぞれの環境における公開されたサーバーへの攻撃傾向の取得、攻撃傾向の分析と、囮環境の構築技術の蓄積、安全なServer構築に関する一般的な知見の蓄積を行う。

＜予定成果物＞
・情報分析結果のレポート
・基盤環境等の構築手法に関するレポート

【スマートフォン活用セキュリティポリシーガイドライン策定WG】
（リーダー：栃沢直樹 氏／トレンドマイクロ株式会社）

従来のエンタープライズ向けのスマートフォン利用のみならず、コンシューマ（個人）利用も視野に入れたスマートフォン利用にあたっての、リスクを踏まえた有効な活用方法の周知、また、スマートフォンと従来の端末（PCなど）との境界もなくなり始めていることから、位置付けについても改めて議論を行う。

＜予定成果物＞
・ベストプラクティス
・活用できていない事例（失敗事例）
・将来的なスマホ活用の予測

【SNSセキュリティWG】
（リーダー：高橋正和 氏／日本マイクロソフト株式会社）

社会的な基盤となっているSNSの安全な利用方法を調査し、報告書やセミナーを通じて普及啓発を図る。

今年度は下記調査を行う他、SNSセキュリティWGとしての世の中への提言やイベントの開催も検討する。
・SNSに関するセキュリティ啓発の現状の調査
・SNS・デバイス・クラウドの関係性の調査

＜予定成果物＞
・各種調査報告書

【組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG】
（リーダー：甘利康文 氏／セコム株式会社）

以下の3方向から「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する考察を深め、ソリューションの提言、提案を行うことを目的とする。
(1) 人の意識や組織文化、
(2) 組織の行動が影響を受ける社会文化や規範、
(3) 不正を防ぐシステム

＜予定成果物＞
・「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」における、本質的に解決すべき課題、ベストプラクティスの提示

【シンギュラティ調査WG】
（リーダー：広口正之 氏／リコージャパン株式会社）

コンピュータは進歩を続けているが、2045年になると人類を凌駕する知性を備えるようになると予測されている。このシンギュラリティ、技術的特異点、または、2045年問題と称される課題に対処するため、シンギュラリティに関する海外、国内の状況調査、調査結果のまとめ、啓発のための報告書作成を行う。

＜予定成果物＞
・シンギュラリティ調査報告書（年1回）
・シンギュラリティ大学連絡役の設置

【IoTセキュリティWG】
（リーダー：兜森清忠 氏/株式会社シマンテック）

2014年4月に新規発足。Internet of Things（IoT）というワードがメディアに登場するようになり、Real time OSのセキュリティの重要性も問われている中、今後、増えうる個人・中小企業のメーカーに対して、セキュリティを維持した製品を提供できるようセキュリティの考慮点等を整理し情報発信していくことを目的に活動する。

具体的には以下の活動を行い、活動成果はNSF等で公表する。

(1) IoTに関する情報収集
(2) IoTとは。ICSとの関係等を含めて整理する
(3) RTOSは何があり、そのパッチはどのように提供されているのか、運用はどのようにしているのか
(4) 脅威の事例。今後起こりうる脅威の予測

<予定成果物>

・調査結果報告書

3. 標準化部会

部会長：中尾康二 氏/ＫＤＤＩ株式会社

昨年度に引き続き、業種・業界・分野等の標準化・ガイドライン化などを推進する。具体的には、JNSA目線のセキュリティベースラインの提供、情報セキュリティ対策ガイドラインの策定などを進める。また、国際標準との親和性の高い案件については、国際標準への提案も視野に入れて、議論を進めることとしたい。

【アイデンティティ管理WG】

（リーダー：宮川晃一 氏/日本ビジネスシステムズ株式会社）

アイデンティティ管理の必要性の啓発および導入指針の提示などによる普及促進、関連他団体との連携により市場活性化を目的とする。

<予定成果物>

・ID連携トラストフレームポリシーの考え方
・特権ID管理解説
・ロール管理解説書改訂

【国際化活動バックアップWG】

（リーダー：中尾康二 氏/KDDI株式会社）

ISFとの連携については、2014年度は見合わせる。KISIAとの連携を継続し、具体的な連携活動のシナリオを上期をベースに韓国と情報交換していく。下期の早い段階で、共同フォーラムの開催（東京）を予定する。

また、ISO/SC27におけるクラウドセキュリティ／アプリケーションセキュリティ等の国際規格化への貢献を継続することとしたい。

<予定成果物>

ISOにおける規格化の文書につき、JNSA目線でのコメントを提出することに主軸を置くため、2014年度については、特別な成果物を想定しない。ISOの規格化が完成した時点で、その結果に基づくガイドラインなどの策定を考える。

【電子署名WG】

（リーダー：宮崎一哉 氏
/三菱電機株式会社　情報技術総合研究所）

電子署名（含タイムスタンプ）の相互運用性確保のための調査、検討、仕様提案、相互運用性テスト、及び電子署名普及啓発を行う。

<予定成果物>

・PDF署名(PAdES)プロファイル標準仕様ドラフト
・署名検証プロセスに関する標準仕様ドラフト
・国際標準化への新規作業項目提案

【ＰＫＩ相互運用技術WG】

（リーダー：松本泰 氏/セコム株式会社）

PKIに関する課題をWGなどで議論し、そうした活動の成果をPKI Day等のイベントで発表する。

【セキュアプログラミングWG】

（リーダー：塩田英二 氏/TIS株式会社）

標準化活動に関して意見交換、情報共有を行う。

4. 教育部会

部会長：平山敏弘 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社

良質かつ社会のニーズに適合したセキュリティ人材の育成のため、必要とされる知識・技能等の検討を行い、実際の大学や専門学校等で評価実験を行う。また、今までの成果を実務として生かすために、IPA等との協力、JNSA会員社に対する教育プログラムの開発実施等、会員や社会への還元も視野に入れる。

【情報セキュリティ教育実証WG】

（リーダー：平山敏弘 氏/日本アイ･ビー･エム株式会社）

2014年度も前期は岡山理科大学において、履修2単位対象となる半期（6ヶ月）で計15回の講義をクラウド環境を利用して、仮想教室環境を実現する遠隔教育実証を実施予定。後期は、教育部会として産学連携での人材育成イベントの実施を計画中。

<予定成果物>

・岡山理科大学で実証したクラウドサービス利用の遠隔教育実証報告の作成
・教育部会イベント発表資料

【情報セキュリティ教育研究WG】
（リーダー：長谷川長一 氏/株式会社ラック）

実証WGとの連携は引き続き行い、今年度はSECCONメンバー等と連携し実践的情報セキュリティ教育の方法やコンテンツについて検討する。可能であれば、その成果をまとめ、実証教育を実施する。

＜予定成果物＞

・「実践的情報セキュリティ教育について（仮）」または「実践的情報セキュリティ教育コンテンツβ版（仮）」

【IT･セキュリティキャリア女性活性化WG】
（リーダー：北澤麻理子 氏/ドコモ･システムズ株式会社）

勉強会や講演会を主催し、女性のIT・セキュリティスキル向上に貢献する。

5. 会員交流部会

部会長：小屋晋吾 氏/トレンドマイクロ株式会社

情報セキュリティ業界の健全な発展のために会員向けサービスを充実させ、業界の発展に貢献する。具体的には、勉強会や製品紹介サイトの運営、各種ガイドラインと製品との関連付け、情報交換・情報発信などを行う。

【セキュリティ理解度チェックWG】
（リーダー：萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社）

日本の情報セキュリティのリテラシー向上を目指し、「理解度セルフチェックサイト」、「情報セキュリティ理解度チェック」、「情報セキュリティ理解度チェック・プレミアム」の利用者増加のための活動を行う。2014年度の年間活動予定は以下の通り。

・ユーザ向けセミナーを実施する
・さらなるプレミアム顧客の拡販に努める
・可能であれば新規問題の追加も検討する。

＜予定成果物＞

・追加問題
・セミナーの開催

【JNSAソリューションガイド活用WG】
（リーダー：秋山貴彦 氏/株式会社アズジェント）

ソリューションカイドの更なる活用を踏まえ、年間の活動を通じて会員企業自身のPRとその企業が有しているソリューションのPRを図る。

＜予定成果物＞

・JNSA内の他部会/WGが作成した成果物とソリューションガイドとの連携
・関係諸団体が作成した各種ガイドラインとソリューションガイドの連携
・関係諸団体が有しているWeb内でのバナー掲載促進

【経営課題検討WG】
（リーダー：菅野泰彦 氏/アルプスシステムインテグレーション株式会社）

中小企業における経営課題を調査・検討し、JNSA会員の事業を応援する。

＜予定成果物＞

・中小企業が共同で行う活動マニュアル
・新卒採用共同面接実施マニュアル
・金融機関貸し出し情報サイト

6. 西日本支部

支部長：井上陽一 氏/JNSA顧問

関西に拠点を置くメンバー企業が中心となり、提携団体との協働の下、西日本のネットワーク社会におけるセキュリティレベルの維持・向上に資すると共に、ＩＴ利活用の実現・推進のため、産官共同して、西日本に集積する中小企業がリスクの変化に応じた機動的な対応を行うことができる機会づくりを支援する。

【企画･運営WG】
（リーダー：大財健治 氏/株式会社ケーケーシー情報システム）

一般向けの公開セミナーに加えて、組込系の繋がるモノづくり・セキュリティセミナーを開催。

また地域のセキュリティレベル向上のため、合同セミナーを年2、3回実施すると共に、昨年に引き続き近畿経済産業局との連携を強化し、経営者向けセキュリティセミナーを積極的に開催していく。

【中小企業向け情報セキュリティポリシーサンプル作成WG】
（リーダー：嶋倉文裕 氏/富士通関西ネットテック株式会社）

情報セキュリティポリシーサンプル0.92版を中小企業に対応するための整理。まずはスタンダード（雛形）を本年度内に作成する。レファレンスについては、雛形作成後を予定。

＜予定成果物＞

・中小企業向け情報セキュリティポリシーサンプル（雛形）

7. U40部会

部会長：米沢晋 氏/株式会社イーライセンスシステムズ

若年層を対象メンバーとして、JNSAの若返り、若年層の活動活発化、幅広い人脈形成を目的として活動を行う。

【JNSAラボネットWG】

（リーダー：長澤駿 氏/富士通エフ・アイ・ピー株式会社）

・JNSA内、ラボネットを利用した検証での環境の提供。
・ラボネットを利用した技術検証の実施。

【勉強会企画検討WG】

（リーダー：一宮隆祐 氏/日本電気株式会社）

U40部会員の知識・スキル向上を目指し、勉強会を企画・開催する。勉強会は講師からの講義だけにとどまらず、グループディスカッションやライトニングトーク、ハンズオンを取り入れ、意見交換を活発化する。部会員以外のJNSA会員からも勉強会参加者を募り、部会員同士・JNSA会員・講師との人脈形成を行う。

8. 情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）

代表：与儀大輔 氏/NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

今年度は、ISEPAとしての活動は休止。教育部会との連携を検討する。

9. 日本セキュリティオペレーション事業者協議会（ISOG-J）

代表：武智洋 氏/日本電気株式会社

セキュリティ診断士に関する検討として、診断士（Webアプリケーション）に必要な知識などの整理を継続する。また、情報セキュリティ小六法の改訂を行い、昨年度のWeb改ざん対策セミナーのような一般向けセミナーを開催。内部セミナー、および、勉強会等を適宜実施する。

＜予定成果物＞

・セキュリティ診断士に向けての検討書等
・IT関連法規のケーススタディ事例解説（セキュリティ小六法の強化・充実化）等
・セミナー実施報告書（内部向け）、一般向け対策提言（一般公開予定）

【セキュリティオペレーションガイドラインWG】

（リーダー：上野宣 氏/株式会社トライコーダ）

診断士資格の設立に向けて、診断士（Webアプリケーション）資格の要項や必要な知識などの整理、資格試験としての体制についての検討を行なう。

【セキュリティオペレーション技術WG】

（リーダー：川口洋 氏/株式会社ラック）

セキュリティ技術の情報交換及びセミナーを各社持ち回りで実施予定。（1ヶ月～2ヶ月に1度）

【セキュリティオペレーション関連法調査WG】

（リーダー：国部博行 氏/富士通株式会社）

月度のミーティング開催（毎月第一週木曜予定）の他、9月に集中検討（合宿）、10月～12月に当WG主催またはWG合同でのセミナーを開催予定。

【セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発WG】

（リーダー：井上博文 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社）

月次定例WGの他、一般向けセミナーを2回（8月・2月）開催予定。また、6月に集中検討（合宿）を実施予定。

【標的型攻撃対策検討WG】

（リーダー：齋藤衛 氏/株式会社インターネットイニシアティブ）

オンラインおよびオフラインでの事案情報共有、勉強会等の実施（発生事案の状況によるが、年3～4回のWG開催を想定）。

10. 産学情報セキュリティ人材育成検討会

座長：江崎浩 氏/東京大学大学院

今年度もJNSAインターンシップを実施中。9月2日・3日に企業見学会を実施予定。

11. SECCON実行委員会

今年度も企業スポンサーを募り、「SECCON 2014」として全国的にセキュリティコンテストを実施予定。予選では、女性向け、ジュニア向け、シニア向け大会も企画。

JNSA 役員一覧 2014年8月現在

会　長　田中　英彦　情報セキュリティ大学院大学 学長
副会長　髙橋　正和　日本マイクロソフト株式会社
副会長　中尾　康二　KDDI株式会社

理　事（50音順）

遠藤　直樹　東芝ソリューション株式会社
大城　卓　新日鉄住金ソリューションズ株式会社
小椋　則樹　ユニアデックス株式会社
小橋　喜嗣　エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ株式会社
兜森　清忠　株式会社シマンテック
後藤　和彦　株式会社大塚商会
小屋　晋吾　トレンドマイクロ株式会社
桜井　鐘治　三菱電機株式会社　情報技術総合研究所
下村　正洋　株式会社ディアイティ
西尾　秀一　株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
西本　逸郎　株式会社ラック
藤伊　芳樹　大日本印刷株式会社
藤川　春久　セコムトラストシステムズ株式会社
水村　明博　EMCジャパン株式会社
三膳　孝通　株式会社インターネットイニシアティブ
本橋　裕次　マカフィー株式会社

幹　事（50音順）

我妻　三佳　日本アイ・ビー・エム株式会社
安達　智雄　日本電気株式会社
岡庭　素之　キヤノンITソリューションズ株式会社
加藤　雅彦　株式会社インターネットイニシアティブ
兜森　清忠　株式会社シマンテック
北澤　麻理子　ドコモ・システムズ株式会社
木村　滋　シスコシステムズ合同会社
郷間　佳市郎　株式会社日立システムズ
工藤　雄大　大日本印刷株式会社
後藤　忍　セコムトラストシステムズ株式会社
駒瀬　彰彦　株式会社アズジェント
小屋　晋吾　トレンドマイクロ株式会社
佐藤　憲一　株式会社OSK
嶋倉　文裕　富士通関西中部ネットテック株式会社
下村　正洋　株式会社ディアイティ
髙橋　正和　日本マイクロソフト株式会社
田中　年男　ネットワンシステムズ株式会社
中尾　康二　KDDI株式会社
西本　逸郎　株式会社ラック
能勢　健一朗　東芝ソリューション株式会社
樋口　健　株式会社インフォセック
蛭間　久季　株式会社アークン
二木　真明　アルテア・セキュリティ・コンサルティング
前田　典彦　株式会社Kaspersky Labs Japan
森　直彦　エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ株式会社
安田　直　株式会社ディアイティ
山平　哲也　ユニアデックス株式会社
油井　秀人　富士通エフ・アイ・ピー株式会社
与儀　大輔　NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

監　事

土井　充　公認会計士土井充事務所

顧　問

井上　陽一
今井　秀樹
佐々木　良一　東京電機大学 教授
武藤　佳恭　慶應義塾大学 教授
前川　徹　サイバー大学 教授
村岡　洋一　早稲田大学 教授
森山　裕紀子　井原法律事務所 弁護士
安田　浩　東京電機大学 教授
山口　英　奈良先端科学技術大学院大学 教授
大和　敏彦　日本ラドウェア株式会社
吉田　眞　東京大学 名誉教授

事務局長

下村　正洋　株式会社ディアイティ

JNSA会員企業一覧　2014年8月現在　156社　50音順

【あ】

(株)アーク情報システム
(株)アークン
アイネット・システムズ(株)
アイマトリックス(株)
(株)アズジェント
アドソル日進(株) New
(株)アピリッツ New
アルテア・セキュリティ・コンサルティング
(株)アルテミス
アルプスシステムインテグレーション(株)
EMCジャパン(株)
(株)イーセクター
(株)イーライセンスシステムズ New
イーロックジャパン(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
イルポンテ(株)
学校法人 岩崎学園
(株)インターネットイニシアティブ
インタセクト・コミュニケーションズ(株)
(株)インテック
(株)インテリジェントウェイブ
インフォサイエンス(株)
(株)インフォセック
ウェブルート(株)
(株)AIR
エクスジェン・ネットワークス(株)
SCSK(株)
(株)エス・シー・ラボ
SGシステム(株)
NRIセキュアテクノロジーズ(株)
NECネクサソリューションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ(株)
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
NTTコムテクノロジー(株)
エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア(株)
(株)エヌ・ティ・ティ・データ
(株)エヌ・ティ・ティ・データCCS
エヌ・ティ・ティ・データ先端技術(株)
(株)FFRI New
(株)OSK
(株)大塚商会

【か】

(株)Kaspersky Labs Japan
キヤノンITソリューションズ(株)
クロストラスト(株)
グローバルセキュリティエキスパート(株)
(株)ケーケーシー情報システム
KDDI(株)
(株)コムネットシステム
(株)コンシスト

【さ】

(株)サイバーエージェント
サイバーソリューション(株)
(株)シー・エス・イー
(株)JMCリスクソリューションズ
ジェイズ・コミュニケーション(株)
JPCERTコーディネーションセンター
(株)GENUSION
(株)シグマクシス
シスコシステムズ合同会社
システム・エンジニアリング・ハウス(株)
(株)シマンテック
(株)信興テクノミスト
新日鉄住金ソリューションズ(株)
新日本有限責任監査法人
セイコーソリューションズ(株) New
(株)セキュアソフト
セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン
セコム(株)
セコムトラストシステムズ(株)
ソースネクスト(株)
綜合警備保障(株) New
ソニー(株)
ソフォス(株)
ソフトバンク・テクノロジー(株)
ソフトバンクモバイル(株) New
(株)ソリトンシステムズ
損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)

【た】

大興電子通信(株)
大日本印刷(株)

タレスジャパン(株)
TIS(株)
(株)ディアイティ
デジタルアーツ(株)
デル(株) New
デロイト トーマツ リスクサービス(株) New
(株)電通国際情報サービス
東京反訳(株) New
東芝ソリューション(株)
ドコモ・システムズ(株)
トレンドマイクロ(株)

【な】

日本アイ・ビー・エム(株)
日本アイ・ビー・エム　システムズエンジニアリング(株)
日本オラクル(株)
日本サード・パーティ(株)
日本セーフネット(株)
日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ(株)
日本電気(株)
日本電子計算(株) New
日本電信電話(株)
日本ビジネスシステムズ(株)
日本マイクロソフト(株)
日本ラドウェア(株) New
(株)ネクストジェン
ネットワンシステムズ(株)

【は】

パナソニック(株)
(株)日立システムズ
(株)日立ソリューションズ
飛天ジャパン(株)
(株)PFU
華為技術日本(株)
富士ゼロックス(株)
富士ゼロックス情報システム(株)
富士通(株)
富士通エフ・アイ・ピー(株)
富士通関西中部ネットテック(株)
(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ
(株)富士通マーケティング
フューチャーアーキテクト(株)
(株)ブロードバンドタワー New
ベライゾンジャパン(同) New

【ま】

マカフィー(株)
みずほ情報総研(株)
三井物産セキュアディレクション(株)
三菱スペース・ソフトウェア(株) New
(株)三菱総合研究所
三菱総研DCS(株)
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
三菱電機(株)情報技術総合研究所
三菱電機情報ネットワーク(株)
(株)三宅 New
(株)メトロ

【や】

(株) ユービーセキュア
ユニアデックス (株)

【ら】

(株)ラック
(有)ラング・エッジ
リコージャパン(株)
(有)ロボック

【わ】

(株)ワイ・イー・シー
(株)ワイズ

【特別会員】

(ISC)^2 Japan
一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
ジャパン データ ストレージ フォーラム
公益財団法人 ソフトピアジャパン
データベース・セキュリティ・コンソーシアム
特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会
電子商取引安全技術研究組合
東京情報大学
東京大学大学院 工学系研究科
一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会
一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス New
一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会
特定非営利活動法人日本システム監査人協会
特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会
一般財団法人 日本データ通信協会 タイムビジネス協議会

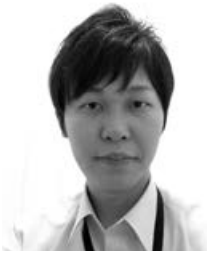
JNSA 年間活動（2014 年度）

4 月	4 月 17 日	第 1 回幹事会
	4 月 28 日	Heartbleed 勉強会（PKI 相互運用技術 WG）
5 月	5 月 14 日	2014 年度理事会
6 月	6 月 2 日	Bitcoin 勉強会・技術編（電子署名 WG ＆ PKI 相互運用技術 WG）
	6 月 10 日	JNSA 2013 年度活動報告会 / 2014 年度総会（ベルサール神田）
	6 月 19 日	第 2 回幹事会
	6 月 29 日	CTF for GIRLS
7 月	7 月 19 日～ 21 日	SECCON 2014 オンライン予選（日本語）
	7 月 25 日	会員交流部会勉強会
	7 月 30 日	経営課題検討 WG 勉強会
8 月	8 月 21 日	IT・セキュリティキャリア女性活性化 WG 勉強会
	8 月 22 日	第 3 回幹事会
9 月	9 月 2 日～ 4 日	SECCON 2014 横浜大会
	9 月 27 日～ 28 日	SECCON 2014 長野大会（信州大学）
10 月	上旬（予定）	WG 合同セミナー
	10 月 25 日～ 26 日	SECCON 2014 札幌大会
11 月	11 月 7 日	第 4 回 日韓シンポジウム（フクラシア東京ステーション）
	11 月 9 日	SECCON 2014 大阪大会
12 月	12 月 6 日～ 7 日	SECCON 2014 オンライン予選（英語）
1 月		
2 月	2 月 7 日～ 8 日	SECCON 2014 CTF 決勝大会 / 全国大会カンファレンス（東京電機大学）
3 月		

★ JNSA 年間スケジュールは、http://www.jnsa.org/aboutus/schedule.html に掲載しています。
★ JNSA 部会、WG の会合議事録は会員情報のページ http://www.jnsa.org/member/index.html に掲載しています。（JNSA 会員限定です）

会員紹介（当コーナーでは、JNSA で活躍されている会員の方に、リレー方式で自己紹介をしていただきます。）

株式会社ディアイティ　赤松孝彬



JNSA 会員の皆様、はじめまして。

株式会社ディアイティの赤松 孝彬(あかまつ たかあき)と申します。この度、株式会社サイバーエージェント 伊藤秀行様よりご紹介を受け、本コーナーを担当させていただくことになりました。

私は、2012年度に新卒でディアイティに入社し、現在3年目25歳になります。入社当時からセキュリティサービス事業部に技術者として所属しております。主な業務としましては、フォレンジックや統合的なネットワークログの解析をしております。また、弊社で販売しているフォレンジックツールのサポート等もしております。

セキュリティ業界に興味を持ったきっかけは、とある企業から漏えいした情報に自分の情報が含まれていたことでした。大学時代は、機械工学を専攻しておりセキュリティについて何の知識もありませんでしたが、この件をきっかけとして、セキュリティ業界について調べ、現在所属しているディアイティという会社を見つけ入社に至りました。当初は、覚えなければいけない知識が多く（今でもまだまだ覚えることは多いですが）大変でしたが、現在は、幅広い知識が要求されるこの業界にやりがいを感じております。

また最近は、JNSA U40部会やISOG-J等の協会活動にも参加させていただいております。今回、伊藤様から紹介を受けまして本コーナーを担当させていただいておりますが、伊藤様とお会いしたのもU40部会です。

協会活動では、勉強会等で知識を向上できることはもちろんですが、懇親会等で高いスキルを持った方々と意見交換することができ、自分自身へのいい刺激となっていると感じています。U40部会については、JNSA会員の方で40歳以下の方でしたらどなたでも参加できますのでご興味のある方は、是非参加してみてはいかがでしょうか。

私事としましては、止まらない体重増加に恐れを感じ、肉体のリスクヘッジを開始しました。テニスをディズニシー隣のコートでやっており、毎回花火が見える絶好のロケーションでスポーツを楽しんでいます。運動した後に最高に美味しいビールを飲んでしまうのが問題点です。ビールでプラスマイナス0な気もしますが、定期的に体を動かすようにしています。

私は、まだまだ修行中の身でありJNSAという活動の場で勉強させていただくことばかりですが、これからも努力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

株式会社インテック　福岡　かよ子

皆さん、こんにちは。（株）インテックの福岡です。ＭＤＩＳの佐藤さんからバトンが回ってきてしまいました。ＪＮＳＡでは「市場調査WG」と「ＩＴ･セキュリティキャリア女子活性化WG」に参加させていただいております。

早いもので情報セキュリティに足を突っ込んでから１０年以上になります（おかげでもうすっかりおばさん域になりました）。十数年前、社内でセキュリティ事業が立ち上がるということで手を挙げたのが運の尽き。関西から晴れて上京することになり、紆余曲折ありましたが現在に至っております。現在は社内の情報セキュリティ関連を主な生業として日々あたふたと生息しております。

情報セキュリティの業務に携わって以来、セキュリティ関連のツールやサービスの情報を収集しており、その関連でお客さまへツールやサービスの動向や導入時調査の分析作業を行う案件があり業務に役立てる為に「市場調査WG」に参加しました。今はその案件はなくなりましたがWGはそのまま継続し、日々勉強させていただいております。WGの一人ひとりがちょっとずつ頑張って毎年「市場調査報告書」がジャジャ～ンとできあがってしまうところがすごいWGであります。それに加えて、ほぼ毎回開催されるWG終了後の慰労会ではいろいろな情報交換ができて楽しいです。いろんなおいしいお店に出会えますよ。一度一緒にいかがですか?

また、弊社もご多分に漏れず「セキュ女」が見当たらない悲しい状態。「セキュ女ネットワーク」を広げるため「ＩＴ・セキュリティキャリア女子活性化WG」にも参加しています。“ＩＴ女子”はだんだん増えつつありますが、その中の“セキュ女”となるとまだまだ絶滅危惧種状態で巡りあうのが難しい。WGに参加することによって社外とのつながりが広がり、また、勉強会では毎回その分野のスペシャリストの話を直接聞くことができ、すっごく勉強になります。ただただ感心するばかり。

インテックでは、現在６名で社内の情報セキュリティ業務全般を担当しております。私は特に、各ＰＣのソフトウェアの情報やネットワークパケットの情報を調査し脆弱性やインシデント等があれば対応しています。最近は社内ＣＳＩＲＴの立ち上げに奔走しております。今年はセキュリーナを掲載した情報セキュリティの小冊子も社内配布でき、社内情報セキュリティの向上に向けて日々努力しております。

個人的には、“なんだかちょっと暗めでわかりにくい”イメージの情報セキュリティをちょっとでも明るくわかりやすくしたいと思っております。趣味のアロマテラピーをいかして「ウイルス撃退スプレー」や「冷や～りはっとスプレー」を作成して情報セキュリティを身近なものに感じてもらうようがんばっています。

休日は趣味でアロマテラピーやハーブのワークショップを開催したりしております。化粧品や石鹸からハーブ酒までいろいろ作ります。最近は野山（そこら辺の道）に生えているハーブ（野草）達を採取して活用しています（道草を食っております）。

いろんなところに出没しておりますので、どこかで見かけたらお声掛けしていただけるとありがたいです。ではまた。

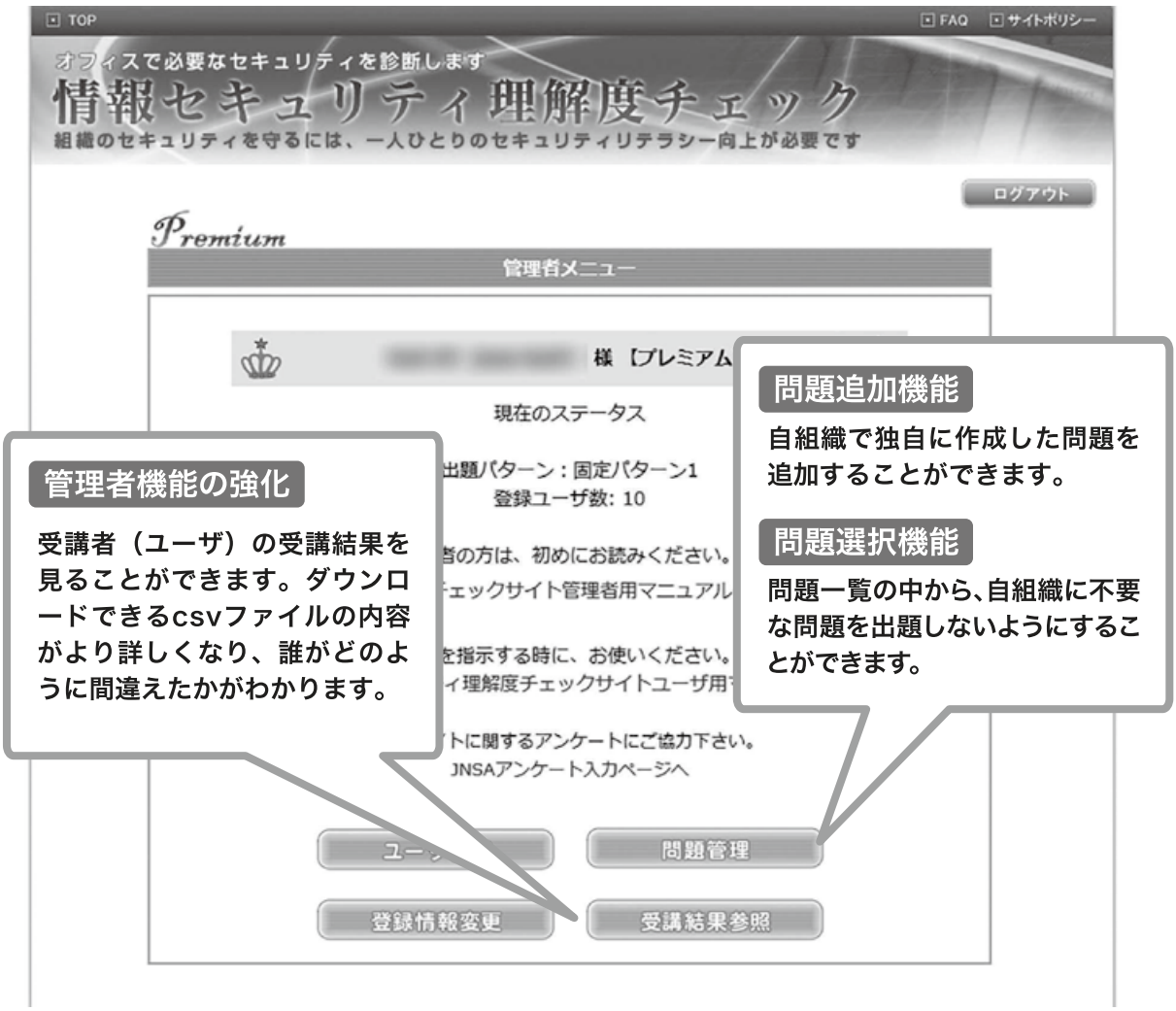
知っておきたい情報セキュリティ
理解度チェックサイト プレミアム
http://slb.jnsa.org/eslb/

JNSA情報セキュリティ理解度チェックサイトは、開設以来、多くの企業の方々にご利用いただいています。

管理者機能をより強化し、独自の問題の追加も可能とした『情報セキュリティ理解度チェックプレミアム』は、更に組織ごとに相応しくカスタマイズしていただける仕様となっております。ぜひ社内教育や情報セキュリティ関連業務の補助ツールとしてご活用ください。

なお、下記ページでは、実際にプレミアムの機能を体験していただくことができますので、是非お試しください。

「プレミアムお試し版」 https://slb.jnsa.org/eslb/guest/index



JNSA

JNSA について

■会員の特典

1. 各種部会、ワーキンググループへの参加
2. 会員勉強会への参加
3.「JNSA ソリューションガイド」
（製品・サービス紹介サイト）への情報登録
4. JNSA 会報の配布（年 2 回予定）
5. メーリングリスト及び Web での情報提供
6. 活動成果の配布・報告書元データの提供（会員限定）
7. イベント出展の際のパンフレット配付
8. 人的ネットワーク拡大の機会提供
9. 調査研究プロジェクトへの参画

お問い合せ

特定非営利活動法人
日本ネットワークセキュリティ協会　事務局
〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-22-12 JC ビル 3F
TEL：03-3519-6440
TEL：03-3519-6441
E-Mail：sec@jnsa.org
URL：http://www.jnsa.org/

西日本支部
〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-14-10
サムティ新大阪フロントビル（株）ディアイティ内
TEL：　06-6886-5540

入会方法
　Web の入会申込フォームにて Web からお申し込み、または、書面の入会申込書を FAX・郵送にてお送り下さい。折り返し事務局より入会に関する御連絡をいたします。

JNSA Press vol.38

2014 年 8 月 31 日発行

発行所
特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
E-Mail: sec@jnsa.org　　URL: http://www.jnsa.org/

印　刷
プリンテックス株式会社

NPO 日本ネットワークセキュリティ協会
Japan Network Security Association

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル 3F
TEL 03-3519-6440　FAX 03-3519-6441
E-mail: sec@jnsa.org　URL: http://www.jnsa.org/

西日本支部
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル（株）ディアイティ内
TEL 06-6886-5540